全労生 前副議長 経済社会構造が大きく り返ってみてはどうで に他ならない。新しい 産性をめぐる政策、経 ナ感染症のグローバル ②「生産性運動三原則 運動を強化する観点か 係が生産性改革の基盤 サプライチェーンへ、 のものや、組織、企業 化とデジタル化により 産性運動の理念」を振 性の精神であり、原点 変質する中、新型コロあろうか。 の今日的意義」〜新し ら、その指針である「生 である。 デジタル化、 人材の価値を中心軸に 時代に即応して生産性 「労使の協力と協議」 ホルダーが、株主、従 ビジネスモデルを変革 認する。 経営と労働の信頼関 業員、消費者、取引先、するとともに、業務そ へと転換する」 ことが の必要性を確認する。 る。これを実現するに 要がある。「誰のため ある。企業のステーク に、製品やサービス、 の実現のためには、「質 ら、成果の公正な分配 することが求められ ろがっていることか 競争上の優位性を確立 さらには地域社会にひ 文化・風土を変革し、 大切である。その実現 的に発展する経済社会 のためには「人材の価

ネットワーク

時代環境は大変革をみ る。この認識のもと、 現が期待されている。 力を高める仕事の創出 は、付加価値の持続的 技術を活用して、顧客 ることが重要である。

成長と分配の好循環 し、データとデジタル 働の質」に焦点をあて

「私たちの目指す社会」

令和の時代を迎え、 ことが求められてい 能力を高める社会の実 ある。人間の価値と能

せている。グローバル 再度、原点である「生 このことこそが、生産 が重要であることを確 な増大の重要な要素で や社会のニーズを基

①生産性運動の原点を 続するためには付加価 のと同時に、人間を中 いて重要となるのは雇

将来にわたり成長を持

革新に果敢に挑戦する

これからの社会にお と協議の充実の必要性

「雇用の維持・拡大」 えた経営と労働の協力

ピードで進み、日本が 現するためには、技術

値を継続的に創出する 心に据え、その価値と 用、とりわけその質で 「成果の公正な分配」 境の激しい変化に対応 る仕事の創出」、「労 今、求められている。

を確認する。

いく持続可能な社会」

少は他に類を見ないス

しく、心豊かに生きて 少、生産年齢人口の減

性運動の再起動~

目指すべき社会を実確認された。

「一人ひとりが人間ら る。日本では、人口減 い時代に対応する生産 産性運動三原則の今日 グローバル化が進み、 ③生産性改革のエンジ は、デジタル化を生産

的意義」が次のように 就労形態が多様化する ンは、いつの時代もイ 性改革のど真ん中に据

中、産業企業の枠を超 ノベーションと人材の え、生産性の計算式の

新しい日常におい き、「雇用の質」、「人 会」のための「生産性

分子サイドに重点を置 と「私たちが目指す社

議論し、構造的な課題

の何のための生産性運

て、企業がビジネス環 間の価値と能力を高め 改革」が、労働運動に